

科目名	発達心理学						
科目名(英)	developmental psychology						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高巢明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医療機関において カウンセラーとして勤務		
対象学科・学年	こども福祉科 3年						
授業概要	人間の誕生から死に至るまで、人間の心や行動がどのように変化していくのか、どのような要因によって変化していくのかを学ぶ。 ①各発達段階(乳幼児期～老年期)からとらえる。 ②諸側面(身体的・知的・言語・感情・社会性等)からとらえる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				各発達段階の人間の心や行動について、説明できる。	
	○	○				人間の諸側面からとらえた心や行動の変化やその要因について説明できる。	
		○				発達という専門的観点で、こどもや福祉サービス利用者を理解・観察できるようになる。	
				○		他者に配慮する姿勢をもつことができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	「発達心理学」宮原和子他著／近畿大学九州短期大学 「心理学理論と心理的支援」／社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・発達段階			講義内容の復習・課題		
	2	発達理論			講義内容の復習・確認テスト準備		
	3	発達理論・確認テスト			講義内容の復習・レポート作成		
	4	発達原理			講義内容の復習・確認テスト準備		
	5	発達原理・確認テスト			講義内容の復習・レポート作成		
	6	知的発達			講義内容の復習・課題		
	7	知的発達			講義内容の復習・確認テスト準備		
	8	確認テスト・社会性の発達			講義内容の復習・レポート作成		
	9	社会性の発達			講義内容の復習・課題		
	10	言語の発達			講義内容の復習・確認テスト準備		
	11	言語の発達・確認テスト			講義内容の復習・レポート作成		
	12	青年期			講義内容の復習・課題		
	13	成人期			講義内容の復習・課題		
	14	老年期			講義内容の復習・確認テスト準備		
	15	確認テスト・まとめ			レポート作成		
評価方法	(1)確認テスト、レポート (2)課題・発表・取り組みの姿勢 上記の内容を下記に示す割合により点数化して評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト・レポート	○	◎		○		70%
	課題・発表・取り組みの姿勢		◎		◎		30%
履修上の注意							

科目名	福祉行財政と福祉計画						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	島 京子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医療機関にて 相談員として勤務		
対象学科・学年	子ども福祉科 3年						
授業概要	現代の我が国における福祉行財政の実施体制・状況について、その仕組みを理解し、福祉行財政が実際にどのように実行されているのかを学ぶ。現在の、我が国の福祉行財政の仕組みは、市町村行政を中心に実施されているが、国と地方自治体との関係の中で、福祉施策の実施がどのようにされているのか、財政の仕組みがどのようにになっているのかを学ぶ。福祉計画の意義や目的、政策策定の体制、方法、留意点について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				①福祉行財政に関する国、都道府県、市町村の役割及び国と地方との関係を説明できる。	
	○	○				②福祉制度の財源、福祉行財政の動向、福祉行政の組織、団体および専門職の役割について説明できる。	
	○	○				③福祉計画の意義、目的、政策策定の体制、方法、留意点について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 10. 福祉行財政と福祉計画(中央法規出版) 福祉六法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉行財政と福祉計画①福祉と制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	福祉行財政と福祉計画②福祉の法制度と福祉計画			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	福祉行政①社会福祉と法制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	福祉行政②福祉行政の組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	福祉行政③社会福祉基礎構造改革			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	福祉財政			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	福祉行政の組織・団体の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	福祉行政の専門職の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	福祉計画の意義と目的			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	福祉計画の理論と技法①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	福祉計画の理論と技法②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	老人福祉計画・介護保険事業計画			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	障害者計画・障害福祉計画			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	地域福祉計画			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(①)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
	定期試験	◎	◎				50%
履修上の注意	受講時、居眠りなど受講態度が不良であれば、欠課とみなす。						

科目名	こどもの保健 I ②					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松下 明美	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども福祉科 3年					
授業概要	こどもの成長、発達、年齢的特性を理解した上で、小児期に罹患しやすい疾患について学習する。小児期の疾患については、身近なものから、徐々に、保育者として知っておくべき専門的な疾患へと移行していく。1～3項目が終わるごとに小テストを行い、復習と理解度の確認をする。基礎知識を学習した上で、予防接種を含む予防対策まで理解できるようにする。					
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input type="radio"/>					小児期各期の罹患しやすい疾患についての基礎知識を学び、概要を説明することができる
	<input type="radio"/>					小児期の疾患、症状を知った上で予防対策についての説明をすることができる
	<input type="radio"/>					予防接種に関する内容、接種時期について理解し重要性を説明することができる
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				子どもの様子から、からだや心の状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる
				<input type="radio"/>		子どもやその保護者の身体的、精神的、社会的側面へ配慮することができる
テキスト・教材 参考図書	・ミネルヴァ書房 よくわかる子どもの保健／・医歯薬出版 日本外来小児科学会編著 お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	子どもの疾患の特徴(先天異常-遺伝子、染色体の異常)			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	2	子どもの疾患の特徴(先天異常-胎芽、胎児病)／呼吸器疾患-解剖生理			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	3	呼吸器疾患-上気道、下気道疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと	
	4	重要な感染症(ウイルス感染-麻疹、水痘など)			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	5	重要な感染症(ウイルス感染-風疹、流行性耳下腺炎など・細菌感染-百日咳)			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	6	重要な感染症(ウイルス感染-インフルエンザなど・細菌感染・その他)			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	7	消化器疾患-解剖生理、ウイルス性胃腸炎など			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	8	消化器疾患-細菌性腸炎など			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと	
	9	循環器疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと	
	10	泌尿・生殖器疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと	
	11	中枢神経疾患／代謝・内分泌疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	12	血液疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
	13	腫瘍性疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと	
	14	アレルギー疾患／整形外科疾患／その他の疾患			教科書の該当範囲を読んでおくこと	
15	乳幼児突然死症候群／予防接種			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	小テスト	◎	○		○	
	宿題・レポート	○			○	
	発表・作品					
評価割合						
履修上の注意	2年生で学習した内容が基礎になるので、しっかり理解した上で授業内容を聞くようにしてください。					

科目名	施設実習指導						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	岩田 佐知子
実施年度	2019年度		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども福祉科 3年						
授業概要	施設実習は保育現場において子どもや利用者と直接接することにより、理論の実践化・実践の理論化の両方を試みる体験学習の機会である。施設実習をより効果的に行うために、実習の意義やねらい・実習対象者施設・実習の心構え等について事前指導を行う。 自ら調べることで、より施設についての理解を深める機会とする。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	△	実技: △ ※ 主たる方法: ○ その他: △
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		児童福祉施設の概要の理解	
	○	○		○		施設の生活の理解	
	○	○		○		歴史・近郊の傾向の理解	
	○	○		○		援助内容と方法の理解	
	○	○		○		施設実習の概要と学びのポイントの理解	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 保育実習指導 ・ミネルヴァ書房 幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習施設・日程の確認 実習対象施設についての調べ学習				実習施設希望調査及び実習施設を確認しておくこと	
	2	調べ学習①				実習施設関連のことを調べておくこと	
	3	調べ学習②				実習施設関連のことを調べておくこと	
	4	調べ学習③				実習施設関連のことを調べておくこと	
	5	調べ学習④				実習施設関連のことを調べておくこと	
	6	実習対象施設についての発表①				実習施設関連のことを調べておくこと	
	7	実習対象施設についての発表②				実習施設関連のことを調べておくこと	
	8	オリエンテーションについて				実習ファイルを準備しておく	
	9	自己課題の振り返り				実習前課題を考えておく	
	10	記録の書き方①				教科書の該当範囲配布プリントを事前に読んでおくこと	
	11	記録の書き方②				教科書の該当範囲配布プリントを事前に読んでおくこと	
	12	児童養護施設の目的と処遇				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	施設の1日の流れ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	実習目標				実習ファイルを準備しておく	
	15	実習の心構え				実習ファイルを準備しておく 教科書の該当範囲プリントを事前に読んでおく	
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○		○		50%
	宿題・レポート	○	○				20%
	作品・発表	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						

科目名	児童文化						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	8時間	担当者			
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	児童文化は、大人が子どものために作ったり、子ども自身が作り、伝承する文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であり、生活そのものである。 この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、子どもの遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得する。						
授業形式	講義: Δ	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:Δ		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童文化に関する重要性を認識し、内容を把握できる。	
		○		Δ		こども遊びを指導者として実践できる。	
		○		Δ		こどもの表現活動を指導できる。	
	○					児童文化財などに関する知識を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教師作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目のオリエンテーション 児童文化とはなにか 児童文化における遊びの位置づけ			実習の振り返りをしておくこと		
	2	遊びについて 伝承遊びについて			実習の振り返りをしておくこと		
	3	児童文化財ー玩具・遊具について			実習の振り返りをしておくこと		
	4	児童文化財ー折り紙			実習の振り返りをしておくこと		
	5	児童文化財ー紙芝居 絵本・読み聞かせ			実習の振り返りをしておくこと		
	6	児童文化財ーぬりえ			実習の振り返りをしておくこと		
	7	季節の遊びについて			実習の振り返りをしておくこと		
	8	おもちゃのワークショップ			実習の振り返りをしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)製作物、(2)授業態度(出席率、私語・居眠りの有無)を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	製作物		◎		○		50%
	授業態度				○		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)	Introduction to Social Research Methods						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	阪井 俊文		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	我々が生活する”社会”のあり方を理解するために、いわゆるアンケートやインタビューなどの社会調査は不可欠な方法である。しかし、その社会調査は適切な方法で行わなければ意味をなさない。本科目では、社会調査の基礎的な知識について、実例を多く取り入れながら解説する。社会調査を実施する際の一連の流れをイメージできるような順序で講義を進める。なお調査法の知識を習得することは、自身が社会調査に携わる場合のみならず、「科学リテラシー」や「情報リテラシー」を高めるという意義もあることを踏まえて講義を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					不適切な方法で行われた社会調査のデータに惑わされないようになる。	
	○					社会調査を用いた文献を正しく理解できるようになる。	
	○					適切な方法で社会調査を実施できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	大谷信介ほか(編)『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	イントロダクション					
	2	”疑似”社会調査の問題点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	調査の「目的」の決定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	「先行研究」の重要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	調査票の作成における注意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	ワーディングの重要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	サンプリング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	調査の実施方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	回収した調査票の”データ化”			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	データの集計(1)「代表値」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	データの集計(2)「分散」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	統計分析・統計的検定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	質的調査・フィールドワーク・言説分析			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	社会調査における倫理問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめとレポート課題						
評価方法	講義時間内に行う小レポートと期末レポート(定期試験に該当)により評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	宿題・レポート		◎				50%
履修上の注意							

科目名	社会保障						
科目名(英)	social security						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	安川 渉寛		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	国家資格である社会福祉士並びに精神保健福祉士の取得に際し、必須科目であると同時に、社会福祉構造全般を学ぶことができ、福祉系の就職及び業務遂行にあたっては、基底となる科目である。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自身の生活と社会保障の関わりについて認識をもつことができる。	
	○					形式的知識を身につけ、1つ以上の福祉制度を簡略化して説明できるようになる。	
				○		テキストの文章表現よりも分かりやすく、ビジュアルアウトプットができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士要請講座編集委員会編『新・社会福祉士要請講座12 社会保障 第6版』(中央法規) ※この他にも、厚生労働省作成資料等を配布することがある						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・社会保障論の定義付け			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	社会保障論の基礎的考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	社会保障の歴史(社会保障の誕生～発展及び歴史的展開等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会保障の歴史(日本における社会保障の歴史的展開と発展過程等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	社会保障の構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	社会保障の財源と費用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	前期前半のレビュー(小テストの実施予定)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	年金保険制度(沿革と概要、公的年金制度の全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	年金保険制度(国民年金制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	年金保険制度(厚生年金保険制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	年金保険制度(他制度とのリンク及びレビュー等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	医療保険制度(沿革と概要、ステークホルダーの概念等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	医療保険制度(国民健康保険制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	医療保険制度(後期高齢者医療制度、混合診療、レビュー等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期後半のレビュー(小テストの実施予定)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	出席及び提出物等の状況、授業中の発言、発表、意欲等(50%)、期末試験(50%)の割合を基準に、個別で総合的に勘案して、評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験		○				50%
	出席及び提出物の状況				○		25%
	授業中の発言及び意欲				○		25%
履修上の注意	2/3以上の欠席がある場合は、期末試験を受験することができない。						

科目名	人体の構造と機能及び疾病						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	島 京子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	子ども福祉科 3年						
授業概要	人体の構造と機能、疾病と障害の概要、疾病と障害による人体の構造の変化、それに伴う生活機能の変化、リハビリテーションの概要などについて理解する。人の成長・発達・心身機能と身体機能の概要、ICFの基本的な考え方、健康の捉え方、疾病と障害の概要について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		①食・活動・排泄・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要を理解し、説明できる。	
	○	○		○		②生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要を説明できる。	
	○	○		○		③機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 1. 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人の成長・発達と老化①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	人の成長・発達と老化②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	身体構造と心身の機能①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体構造と心身の機能②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	疾病の概要①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	疾病の概要②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	疾病の概要③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	疾病の概要④			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	障害の概要①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	障害の概要②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	障害の概要③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	リハビリテーションの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	国際生活分類(ICF)の基本的な考え方と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	健康のとらえ方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ						
評価方法	(①)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
	定期試験	◎	◎				50%
履修上の注意	健康・保険・医療に関するニュース番組をみたり、新聞を読んだりする習慣をつけること。受講時、居眠りなど受講態度が不良であれば、欠課とみなす。						

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年							
授業概要	保育・教育の学びとして1つのオペレッタ作品を作り上げる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					調べ学習からのプレゼンテーション能力	
				○		表現する能力	
				○		協同する力	
		○				企画、計画を立案し協力して進めていく力	
				○		創意工夫力	
テキスト・教材 参考図書	各自 必要な本・教材を準備する						
授業計画	回数	授業項目・内容					
	1	卒業研究についてオリエンテーション役割決め					
	2	題材についての検討(DVD鑑賞)					
	3	作品決定のためのプレゼンテーション					
	4	各担当役割分け スケジュール立て					
	5	題材研究					
	6	各担当別に 製作(音響、小道具、大道具)					
	7	配役					
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15	前半振り返り						
評価方法	作品・発表レポート提出及び取り組み態度						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品・発表	○	○		○		50%
	レポート	○					20%
	取り組み態度				○		30%
履修上の注意	表現する力、協同する力を発揮できるように、1人ひとりが意識を持つこと。						

科目名	乳児保育					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	増田 吹子	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども福祉科3年					
授業概要	乳児保育の必要性と役割について学ぶ。 3歳未満児の発育・発達について学び健やかな成長を支える。さらに3歳未満児の生活と遊びについて理解する 子育てを担う保護者を支援するものとしての保育の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての、知識や技能を 習得する。					
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	<input type="radio"/>					現代の社会的意義から乳児保育の必要性を説明できる。
	<input type="radio"/>					乳児保育の役割について説明できる。
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				3歳未満児の発育・発達・危険(安全管理)について学び、健やかな成長に必要な知識について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子/編著 同文書院					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	乳児保育の社会的意義				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	2	離乳をすすめるにあたってのポイント 基本的な生活習慣の自立に向けての保育者の対応				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	3	乳児保育における安全管理について				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	4	言葉の発達について ことばをはぐくむ関わりについて				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	5	連絡帳を書くうえで大切にしたいこと 「虐待」とはどのような行為か、また虐待が疑われる場合の保育者の対応				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	6	発達が気になる子どもの保護者との連携について				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	7	科目試験「乳児保育の果たす役割について」				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	8	認定こども園とは、その機能、導入の社会的背景				テキストの該当範囲を読んでおくこと。
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1) 授業態度(出席率、居眠り・私語等)、(2) 定期試験の点数により評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	授業態度				<input type="radio"/>	
	定期試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
履修上の注意						

科目名	音楽Ⅲ				
科目名(英)	music performanceⅢ				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	中村寛子
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども福祉科3年				
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。3年生は更に年度末にピアノ発表会があるため、課題曲(バイエル教本又はソナチネ曲集より任意の1曲)自由曲(何でも好きな曲1曲、Jポップ、クラシック何でも可)を練習する。ピアノが弾けるようになる喜びを感じてもらう為であり、何でも頑張ればできるようになるということを感じてもらうために、独自に考案した授業内容である。このことにより、自己肯定感が高まり、また、ピアノ技術のかなり向上する。				
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
	○				
	○				
学習目標(到達目標)	目標				
	音楽の基本知識となる、楽典を習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)する。				
	ピアノ演奏実技を習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)する。				
	声楽の基本実技を習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)する。				
	ピアノ演奏における表現力を習得(強弱、スタッカート、レガート、マルカート、レジェロ等)する。				
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管) 				
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	・今期のガイダンス(20分)・バイエル93番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典(10分)・練習(45分)			授業までにバイエル93番を弾いてくる
	2	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル94番(バイエル教則本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル94番を弾いてくる
	3	・おはようの歌の実習(5分)・せんろはつづくよどこまでも(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)楽典(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			せんろはつづくよどこまでもの弾き歌いを練習してくる
	4	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			せんろはつづくよどこまでもの弾き歌いを練習してくる
	5	・おはようの歌の実習(5分)・おばけなんてないさ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			おばけなんてないさの弾き歌いを練習してくる
	6	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			おばけなんてないさの弾き歌いを練習してくる
	7	・おはようの歌(5分)・アンパンマン体操(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			アンパンマン体操弾き歌い練習をしてくる
	8	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	9	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	10	・おはようの歌の実習(5分)・ぼくのミックスジュース(ファイル)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			ぼくのミックスジュースの弾き歌い練習をしてくる
	11	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	12	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	13	・おはようの歌の実習(5分)・てのひらを太陽にの解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			てのひらを太陽にの弾き歌い練習をしてくる
	14	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	15	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	16	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	17	・おはようの歌の実習(5分)・1年生になったらの解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	18	・おはようの歌の実習(5分)・実習曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	19	・おはようの歌の実習(5分)・実習曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	20	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	21	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	22	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習
	23	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			ピアノ発表会の自由曲の練習

授業計画	24	前期試験					
	25	・後期授業ガイダンス(10分)・練習(80分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	26	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	27	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(6分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	28	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(7分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	29	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(8分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	30	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(9分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	31	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(10分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	32	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(11分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	33	おはようの歌の実習(5分)・ピアノ発表会の練習(80分)・お帰りの歌の実習(12分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	34	中間発表会	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	35	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	36	ピアノ発表会リハーサル	ピアノ発表会の自由曲、課題曲の練習				
	37	ピアノ発表会					
	38	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	39	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	40	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	41	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	42	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	43	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	44	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	45	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	46	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
	47	合奏(保育園や幼稚園で使用する小物楽器の練習)					
48	後期試験(合奏試験)						
評価方法	(1)授業中の課題曲(小テスト)、(2)定期試験(ピアノ、声楽、筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎		○		20%
	定期試験	◎	◎				80%
履修上の注意	3年生では、実習前は実習先から指定された曲の練習、採用試験前は、採用試験曲の練習、発表会前は発表会の曲を最優先とするため、課題を多く設定しない。個々により目標が異なる。 授業の中での課題曲(小テスト)が合格しない場合は、定期試験の資格がないものとし、試験を受験できない。						

科目名		相談援助実習					
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	180時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	社会福祉士を目指す者が、社会福祉専門職(社会福祉士)として必要な「専門知識」、「専門技術」及び「関連知識」について、障害者施設において実践的に学ぶ。具体的には、①社会福祉施設の現場の実態を学ぶ、②専門職の役割と連携を学ぶ、③個別支援計画の策定の仕方と実際について学ぶ。また、社会福祉の現場での実践を通し、支援者として必要な心の在り方について学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標(到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会福祉施設の役割について説明できる。	
	○					施設における社会福祉士の役割について説明できる。	
	○					施設における他職種との連携の実際について説明できる。	
	○					個別支援計画(インテーク～プランニング)を立案できる。	
テキスト・教材参考図書	相談援助実習の手引き						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	(職場実習) ・施設の役割				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	2	・職場のミッション				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	3	・援助方針				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	4	・施設の運営管理				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	5	・社会福祉士及び他職種の役割と連携				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	6	・利用者理解				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	7	・地域・社会資源の理解とその連携の在り方。				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	8	(職種実習)				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	9	・支援員の担当する業務全般(相談援助、ケアワーク、書類管理、事務手続き、実習生受け入れ、訪問等)				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	10	・個別支援計画策定対象者の検討。				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	11					実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	12					実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	13					実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	14					実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	15	(ソーシャルワーク実習)				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	16	・ニーズ把握のための手立て・調査				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	17	・相談面接・アセスメント				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	18	・カンファレンス				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	19	・個別支援計画策定				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	20	・家族等との連絡調整				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	21	・モニタリング・評価				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	22	・苦情処理				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
	23	・ソーシャルアクション				実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること	
24					実習日誌、課題は次の日の朝に提出すること		
評価方法	施設からの評価(基本的知識の理解、実習の課題と目標の設定、実習日誌の記録、利用者との関係、援助の視点と方法、職員との関係、実習態度と意欲、仕事上の責任の遂行)による。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設からの評価		○		◎		100%
履修上の注意	実習前までに出席率が90%以上あることと、実習前面接に合格できていることが実習要件となる。3日以上欠席等あった場合は、実習中止とする。						